

# もののはずみでダンゴムシ協会

宮里 和則

「こんにちは、日本ダンゴムシ協会の宮里です」

最近はこうあいさつすることが多くなった。

日本ダンゴムシ協会は、ダンゴムシで遊ぼう、  
レースをしようという協会である。

おかげさまで色々なところに取り上げられ、知ら  
れることとなつたダンゴムシ協会だが、その誕生は、  
まさに「もののはずみ」だった。

私は別に筋足動物の研究者でもマニアでもない。  
私は児童館の職員。どちらかといえば、虫などに夢

中になっている子どもが好きなのだ。

ダンゴムシ協会を立ち上げたのは、一九九六年  
春。新しく赴任した児童センターで土が嫌いだとい  
う子どもたちに出会つた。確かに今の都市生活は、  
土を嫌う。マンションの階段に土が持ち込まれた

## 特集〈はずむ〉

ら、大騒ぎだ。家の前も学校も舗装されていて、一日中土を踏まなくても生活できる。

あまりにも驚いた私は児童館のお祭りで子どもたちに聞いてみると、なんと半数以上が嫌いだと言うのである。元昆虫少年の私は、めまいを感じた。こんなことで良いはずがない。

そこで土に関わるイベントに意識的に取り組むことにした。

泥だんごコンテスト、ビー玉レース、土壁作り、そして庭に穴を掘つての露天風呂作り 等々。その中の一つが、ダンゴムシレースだった。

そのころはミニ四駆という、プラモデルの四輪驱动車のレースが大変なブームで、一行広告を児童館のお知らせに出すだけでもたくさん的人が集まつてくる時代だった。

このミニ四駆レースに対抗して、ダンゴムシレースを企画したのが始まりだ。「春はやっぱりダンゴ

ムシレース」と銘打つてお知らせを作り配布した。

反響はまずお母さんたちからあつた。

「ダンゴムシって、あのダンゴムシですか……」

「面白いことを考へるんですね……」

「ダンゴムシ今でもいるんですか」

待つてました!の反応だった。子どもたちは小さなもの、生き物にも心を寄せ遊べること、大人がたわいのないものと思っていて、こんな遊びこそ子どもたちと語り合いたかったからだ。

さて、レースの前の予行演習を二週間前から始めた。するとと思いがけないことに、ダンゴムシがどこにいるか知らない子どもたちがいた。



そこでレース前にダンゴムシツアー（ダンゴムシがし）することになった。これもはずみだったがツアーオ出かけてみると、これは大変面白いものだとわかった。

まずダンゴムシ好きの子どもたちが、自分の秘密

の場所を次々に紹介してくれる。ふだん児童館ではボール遊びしかしない子がこんな生活（遊び？）をしていたんだと改めてその子を見直したり……。私にとつて子ども再発見の時となつた。

そしてたくさん街の人と話す機会になつたということ。ダンゴムシのいそなプランターやトロ箱を見つけると、持ち主を捜し出し、「すみません。ダンゴムシさがしているんですが……。この植木鉢動かしても良いでしょうか？」と尋ねる。初めはビックリしていた人も、笑つてOKしてくれる。「今の子どももダンゴムシで遊ぶんですか」「懐かしいなあ……」。

これには二つの良いことがあった。一つはダンゴムシが捕れる事。そして二つ目は、次に会つた時にお礼が言えること。街の人とつながることが少ない都市の子どもにとつてこれはとても大切なことだつた。

そして、何といつてもダンゴムシさがしは、くじ引きと同じ様な面白さがあった。この石の下にいそうだと思って持ち上げてみると、アリがびっしりいて「きやー」となつたり、まだ眠っているカエルにあつてしまつたり……。そして、ようやく見つけた時の大喜び……。

さてこんなツアーオ終えて帰つてくると……。思いがけず七十人もの人が集まつてきたのだ。

ダンゴムシやその仲間たちが土を作つてることや、どんな生き物にもその役割があることなどを話し、レースを始めたことにした。

レースは二重円を書いてそのまん中にダンゴムシ

## 特集 〈はずむ〉

を入れ、スタート。外の円から先に出たダンゴムシが優勝という簡単なもの。しかし途中で丸くなつてしまふもの、後少しで「ゴールだと言うところで戻つてしまふもの、ぐるぐる回つていつまでも出ないもの……等、数限りないドラマがそこにはあつた。

このレースはその後ミニ四駆レースが下火になつた後も、二三十人前後の参加者がある人気のイベントとなつたのである。もちろんいつもダンゴムシツアード一緒にだ。

さて日本ダンゴムシ協会であるが、それはこのイベントの主催団体として子どもたちと一緒に設立した。もちろんはずみ（のり）である。さらにそのはずみでホームページも立ち上げてしまつたのである。

これがWeb上で話題になり、たくさんの子どもたちからの質問のメールがくるようになつた。私も

ずいぶん勉強して、ダンゴムシに詳しくなつた。これがダンゴムシ協会出生の秘密である。

（つい）まで書いてきて考えた。「はずみ」というと、ただ偶然に、と考えられやすい。しかし、協会誕生の道行きは「はずみ」で生まれた「面白く」、「面白く」が生み出した「はずむ心」に引っ張られてきていたように思う。つまり、「はずむ心」を創造の原点だつたわけだ。

明日はどうな「はずみ」が起り、どんな「はずむ心」が生まれるのだろう。

（日本ダンゴムシ協会）

日本ダンゴムシ協会

<http://homepage2.nifty.com/e-mon/dango/>

E-Monic Thinking

<http://homepage2.nifty.com/e-mon/>

追伸：日本ダンゴムシ協会ではダンゴムシの事件簿を募集中です。ダンゴムシにまつわる事件、面白いエピソードがありましたら、ぜひお知らせください。

## はなまるHピソード、ポンポーン

すとうあさえ

夫「きょうは、だれと遊んだの？」

私「かず子ちゃんと、しんpei君」

夫「えつ、でも、かず子ちゃんとしんpei君は気があ

わないだろう」

私「そうよ。だから、この子は大変だったのよ。か

ずちゃんと少し遊んだら、今度はしんpei君って  
いう感じで、大いそがしよ。毎度のことだけど

ね」